

# 兒童の個性及其取扱法 に就て

文學士 松本孝次郎

前回に發動的の子供と云ふものは注意の流動といふものがあつて永く一物を静觀することが出来ないといふことを述べて置きましたがつまり此類の子供と云ふものは考へる所の思想と云ふものを直に發表して之を實行して仕舞ふ。

その激しいものになりますると自分が歩く時にでもドン／＼歩くことは出来ないで矢張り歩く中に注意の流動があつて他の小供の様に歩くことに熱心になることは出来ぬので矢張り途中で色々な遊事をやるといふやうな性質になつて行くのです、此發動的の兒童は概して獨斷的に何でもやるといふ性質があります。ナカ／＼他の人の言ふ事を聽かない、それで自分からして爲さうと思つたことを其通りに直此獨斷的に自分の思ふ事を何でも其通りにやりたがるといふのはどう云ふ譯で起つて来るかといふと、此類の小供は常に自分といふ者

の思ふた事を發表したいといふ傾きがある爲である、常に已といふ者を大勢に發表したいといふ傾きがあるから起つて来る、詰り始めにどう云ふ様に啼くかといふ事を申したが丁度啼といふ事も自分の心を發表するといふ傾きから出て来る、我儘であるといふ事も少しも違はぬ、我儘であつて獨斷的であつて其中矢張り已の心を其通りに發表したいといふ傾きが表はれたものに外ならぬ、此類の小供は時々粗暴亂暴な事をば随分やります即ち色々の感覺機關の中で以て此類の小供には筋肉の感覺といふものが心の内容を重みに形造つて居る、筋肉に訴へたことが餘程よく精神上の内容を形造つて居ると言つて宜いのです、それから此類の小供は他の小供を成るべく自分の思ふ様に支配してさうして自分の權力を揮つて来る事を好んで居る、小供の中に於て所謂小供の大將になりたがる又實際なつて居る小供は此發動的の兒童にあるのです、それだからして皆な人が能く注意して御覽になるといふと小供の中で他の小供をば支配して親方となつて居るやうな小供は皆世性質を持

つて居るのです、さうして精神の方も特に高等なる精神の働きに付て申しますと此類の小供は餘り速かに概括する傾きがあつていけない、概括の仕方か餘り早過ぎていけない、詰り充分精密で無い、例へば一度此類の小供が東郷大将の話でも聞かされるとモウ直ぐに自分は海軍の軍人になりたといふやうな心を持つて仕舞ふ、其小供に話をかして居る保母から言へば大層其小供は自分の話に感動したやうに見へまするけれど、是決して喜ぶべきもので無い、唯、一場の話で聞いた丈で直ぐに自分は海軍々人になりたといふやうな決心をするといふのは概括の仕方が餘り速かであり過ぎるものと言はなければならぬ、其類の小供は即ち發動的の小供が多いのですそれから又此類に屬しまする小供は物を區別することをば認めてさうして之を記憶して居るところの力に乏しい、それはどう云ふ所に表はれるかと言ひますと或小供は度々同一の過ちをやる事がある、自分の心から悪い事をするといふ譯ぢや無いが過つてやる事が度々ある、同じ過ちを屢々やつていけない、どうも

同じ事を幾ら言つて、犯していけないといふのは其小供のどう云ふ性質から起つて居るかといふと區別といふことは認めて之を記憶して居る力が乏しい爲でありませう、それは詰り心が何時でも唯、發動的にばかり働いて之を自分で其事に當つて省るといふ性質が缺けて居る爲であります、さうして又此類の小供は注意の流動といふ事がありませう爲に今致へられた事も右の耳からして左の耳へと抜けて仕舞ふやうな工合に精神の中で之を類化する暇が無い、チアンと自分に持つて居る思想と今言はれた事とを類化して心の中に止めて置く丈の性質が欠けて居るのです、斯う云ふ様に發動的兒童の性質の欠点といふものが色々の所に表はれて來ますから幼稚園或は家庭に於きまして其小供が此様な傾きを持つた小供であり落附かない小供であるといふ事を認めなければ非此小供の性質を落附ける様に工風して行かなければならぬので成る可く斯う云ふやうな性質は家庭の時代幼稚園の時代は勿論であるが十五歳位までの中に此性質を直すといふ事を心掛けぬといふとそ

以後に於て之を改めるといふ事は六つかしい、何故六つかしいかと言ひまするとモウ青年の頃になりますると之を改めるといふよりは今までの性質をば其通りに守るといふ方の傾きがありますからしてどうもいかぬのです、それで斯う云ふ様な片寄つた個性といふものを打遣つて置けばどう云ふ様な憂うべき事が起つて來るかといふと詰り何事も充分本當に理解するところが出來ないで終つて仕舞ふ、詰り唯、物の表面丈けを理解して本當に深く理解しないで終つて困るのです、そればかりで無く自分では本當に分らなかつたものを恰も分つたやうな風に假定して居つていけないのです、それでありますからよく大きな子供に數學などを教へて見ますとこちらでは根好く説明してやる、小供の方でも何だか分つたやうな風に見へて居つても問題を出してやらせて見ると決して分つて居らない、能く分つて居らないといふ事が分る、斯う云ふ場合に此小供は發動的兒童の發達したものであります、矢張り自分では本當に分らぬけれ共分つたもの、様に

自分で假定して濟まして居るから教へる方の人もツイ分つたか知らぬと思つて居るので其實はチヨツとも理解して居らないといふ事があるのです、それだからして矢張り學力が本當に進むといふ事は無いさうして其上にどう云ふやうな職業でもどう云ふ様な學問でも總て専門的事をやるのには適しませぬ、斯う云ふ様な性質の儘で育つて仕舞へば何事も深くはやらぬですから専門的事をやるに適當しなくなる、

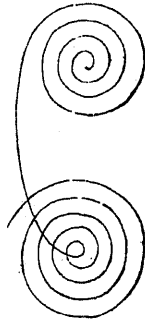
そこで此發動的の兒童を取扱ふにはどう云ふ方法を用ゐたら宜いか發動的の兒童に對しては多少困難な仕事をやらせる方が宜いのです、例へば積木の如きものに致しましても自己の工風といふやうな事を多く本當にやらせる方が宜い、若しこちらからして手本を示してさうして此通りやれと言へば發動的の兒童は容易くやつて仕舞つてわとは自分の勝手な事をして騒ぐとか巫山戯るとか遊ぶとか云事になつて仕舞ふ、所が工風といふ方をやらせますと其間に自分の注意といふものを他へ移すことは出來ないからして、それで始りは此注意の流動

性を持つて居つて他の事へ移り易いのですけれども、  
實際工風して考へて居る間には注意が他へ轉ずる  
ことは出来ないからして度々さう云ふ事を課せら  
れて工風して居る間に其小供の注意の流動性とい  
ふものが減つて来る、一つ事に割合に長く掛つて  
注意して居ると其性質が養はれる事になつて来る  
のです、だからして他の小供よりは割合に多く考  
へる方の事を餘計に課した方が此發動的兒童の個  
性を直すことが出来るのです、之を圖に描いて見  
ますと發動的兒童の注意の働方は



といふ風で、天然自然の儘であるならば一つ所に  
長く止つて居ることは出来ないから、始終違つた  
方向に向つて此通りに進んで行かうと言ふので  
す絶へず異つたる方向に進んで行かうといふので  
すけれ共之を直し、一つの事を考へるやうな工風  
に訴へる、さう云ふ作業をやらせて居りますると  
此類の小供の注意の働方が或一つの所で割合に長

く働いて居つてそれから又他の事柄に移つて、さ  
うして其他の事柄に付て割合に長く働いて居つて  
又他の方へ變つて行かうといふ譯になる、詰り或  
一つの事柄に對して働いて居る時間が割合に長く  
なるやうな工合に行かうと言ふのです、即ち注意  
の働方が單純的であつたものがこちらで以て自分  
の考を長く廻らさぬければならぬやうなさう云ふ  
作業を與へますと此小供の個性を表はす一つの方  
て行くのです是が此小供の個性を表はす一つの方



法でありませす、  
それから此發動的の兒童は前に申します通りに他  
の小供を支配しやうといふことを好んで居る、其  
天性の儘に打遣つて置けば益々他の小供を支配し  
自分が先になつて注意を輕々しく働かすことを  
好む様になりませすから之を導く爲めに幾らか此小

供よりは進歩した小供の中に入れることが必要である、即ち此小供に依つては左右することの出来ない様な、幾らか此小供よりは發達した様な小供の中に入れることが必要であります、詰り餘程良い方の小供、優等の小供の側へ持つて行つて置くことが此小供の個性をば幾らか抑へるゝが出来るやうになる方法であります、故に此小供の友人を擇ばなければならぬ、其擇方は成るべく此小供よりはモツと幾らか頭の進歩したやうな小供と友達にして置くことが非常に役に立つのです、保姆が若し此類の小供に或仕事を課しましてさうして幾らか手傳つてやらなければ旨いかなぬ、若し小供に困難で有過ぎる様に認めた場合に之を助けるにはどう云ふ方法にして助けたら宜いかと言ふと一度に充分に助けてはいけない、詰り此類の小供には度々に助ける様にすることが必要である、一から十まで助けてはいかぬ、一から三まで助け三から六まで助けて行くといふやうな場合に一時に助けないで少し宛助ける即ち工風の如きも小供の考には出來ると認めたらば其端緒を始りに助け

て置く斯うしなさいと言つて置く、その先きはこちらで直ぐにやつてやらぬ、又考へさせそれから又其先を助けるといふやうな場合に段々に助けることが非常に必要であります、それでないと云ふと矢張り此子供に注意の流動といふことを止める方法にはならぬのです。

### 世界各國最近著社せし各國新聞の重なる記事

▲小學生の夏期農業 昨年組育の小學校にて夏期休業を利用して上級の生徒をして農事の手助けをなさしめたるに農業者に非常なる満足を與へたるのみならず生徒は海濱等に旅行するよりも著しく健康上の發達を見たるより今年も同一計畫を爲す者にて此程生徒中より志望者を募集したるに四月末に於て既に二千五百名に達したる由なり

▲最大の時計 米國シアトシ市の會堂の時計臺に据付るため目下コンネクチカットの時計製造會社にて製造中なる時計は世界最大の時計たるベシトの事にて其時計の長針のみを運搬するに貨車一輛を要すべく其重さ一噸の三分の一にして長さ十八呎四分の一なり又其針が一分毎に動く距離は廿三吋一日に半哩以上を動く割合なり時計面の直徑は廿八呎にして時計の器械の重さは六噸なりと